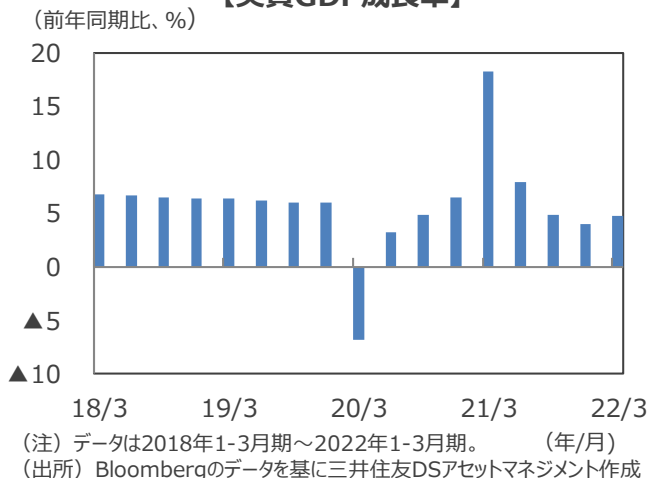
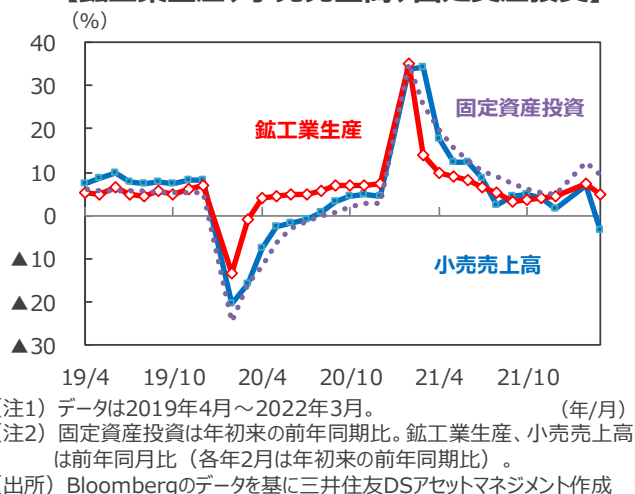


今日のトピック 中国の1-3月期GDP成長率は4.8%
市場予想を上回るもゼロコロナ政策で足元減速傾向
ポイント1 GDPは市場予想を上回る

- 中国国家統計局は18日、主要経済指標を発表しました。1-3月期の実質GDP成長率は前年同期比+4.8%と、市場予想の+4.2%を上回り、前期の+4.0%から伸び率が拡大しました。
- ただし、GDP成長率は、新型コロナウイルスの感染抑制に向けたゼロコロナ政策に伴う事実上のロックダウン（都市封鎖）の影響が十分に反映されていないとみられます。同時に発表された3月の小売売上高や鉱工業生産は足元の景気減速を示しています。

ポイント2 3月の小売売上高はマイナス

- 3月の小売売上高は前年同月比▲3.5%とマイナスに転じました。1~2月の平均値である年初来の前年同期比+6.7%と比べると大きく減速しました。一部都市のロックダウンにより個人消費が落ち込みました。
- 3月の鉱工業生産は前年同月比+5.0%となり、1~2月の年初来前年同期比の+7.5%から減速しました。ロックダウンに伴う工場稼働率低下等の影響を受けました。
- 一方、1~3月の固定資産投資は前年同期比+9.3%と、比較的堅調でした。政府の景気対策の下でインフラ投資が+8.5%と、前月から加速しました。

【実質GDP成長率】

【鉱工業生産、小売売上高、固定資産投資】

今後の展開 今年後半の景気持ち直しがメインシナリオだが…

- 5年に一度の党大会を秋に控え、今年中国の成長率目標はやや高めの「5.5%前後」と設定されました。22年前半はロックダウン等の影響で景気はやや足踏みするものの、金融緩和やインフラ投資拡大によって年後半に持ち直すと考えられます。ただし、今後もロックダウンが続いてしまう場合、中国の内需が失速する他、生産減による供給不足が他国に広がるリスクがあります。リスクシナリオとして注意する必要があると考えられます。

**ここも
チェック!**

2022年4月12日 中国株ADRは市場支援策への期待で反発
2022年3月24日 中国株は振れの大きい展開

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。